

平成20年度農林水産大臣賞

『ぎばって足沢・70の会』^{たるさわ} 岩手県二戸市

【むらづくりの経緯・動機等】

地域の女性たちが、足沢地区の活性化について検討を重ねるうちに、地区住民が足沢地区の集落機能の低下防止策について考えるようになり、平成13年に足沢部落会が中心となり地区の魅力再発見調査を実施した。

部落会を中心とし地域資源を生かした都市住民との体験交流のイベント等を実施する中で、「経済性(事業収益)」も重要であるとの結論に達し、地域活性化に向けた活動組織となる「ぎばって足沢・70の会」が発足された。

【位置】



【地区の概要】

ぎばって足沢・70の会

項目	内容	
規模	集落	(2集落)
性格	地縁的な集団	
農家率 (内訳)	総世帯数	72 戸
	農家数	52 戸
販売農家数 (内訳)	専業農家	16 戸
	種農家	15 戸
	種農家	15 戸
主要作物 (作付面積)	水稻	318 ha
	雑穀	102 ha
	葉たばこ	89 ha

【推進体制】

「ぎばって足沢・70の会」は、地区住民21名により構成されており、活動に当たっては足沢地区の各組織と連携しながら実施している。

主な活動として地域特産品の研究開発、交流イベント等の企画・立案、地元食材を活用した郷土料理の魅力発信等の取り組みを展開している。

【生産面への寄与状況】

「ひえ」「あわ」「アマランサス」などの雑穀の魅力を地区内外へ発信するとともに、汎用コンバインの導入とシルバー人材の活用や「結い」の精神を生かして新たな生



産体系を整え栽培面積を拡大し、県内有数の産地に成長させている（特に足沢地区は市の生産量の約半分を占める有数の産地である）。また、新たに有機質肥料の使用や無農薬栽培により、安全・安心な雑穀の生産を進めている。

地元で伝統的に栽培・加工されていたが、主として家庭用であった「赤長カブ漬け」をインターネット販売するほか、地元産大豆を使用した味噌・凍み豆腐を直売所等で販売するなど郷土料理の魅力も全国に発信している。

【生活・環境整備面への寄与状況】

春の「苗植え体験」、秋の「足沢の旬を楽しむ会」、冬の「足沢小正月を楽しむ会」など年間を通じて、都市農村交流のイベントを企画・実施している。また、交流施設が整備されていなかったことから「サイロン亭（集会所）」、「屋外トイレ」やグリーンツーリズム推進のため、トレッキングコースを会員自らの労力により整備し、これらの取り組みが功を奏し都市農村交流人口も年々増加するなど、地域活性化に結びつけている。

